

群馬県桐生市 企業版ふるさと納税

桐生ならではの地方創生に
力をお貸しください！

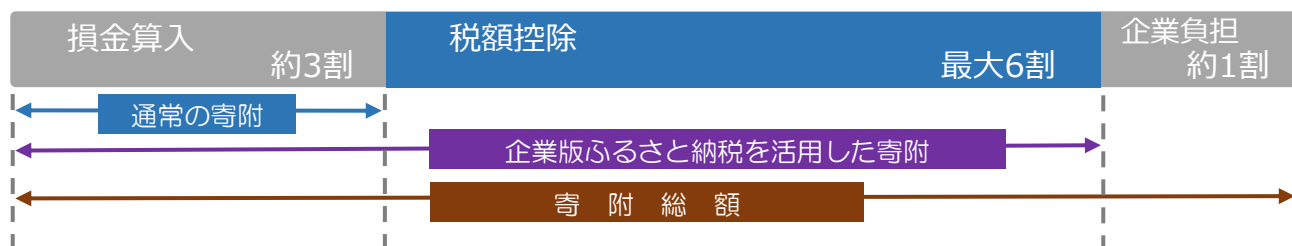
企業版ふるさと納税のしくみ

Point 1 桐生市と企業が協力してまちを元気にします

企業版ふるさと納税（地方創生応援税制）とは、国が認定した地方公共団体の地方創生プロジェクトに対して企業が寄附を行った場合に、法人関係税から税額控除する仕組みです。社会貢献（SDGsの達成など）により、企業のイメージアップにもつながります。寄附された企業名等は、市ホームページや広報紙などでご紹介します。



Point 2 法人関係税が大きく軽減されます



Point 3 寄附の要件

- 寄附額が10万円以上であること。
- 本社（※）が桐生市に所在しないこと。
- 寄附を行うことの代償として経済的利益を伴わないものであること。
※本社とは、地方税法における「主たる事務所又は事業所」を指します。

お問合せ・寄附のお申込み先

〒376-8501 群馬県桐生市織姫町1番1号 桐生市 共創企画部 企画課
電話：0277-46-1111（内線525） FAX：0277-43-1001
メール：kikaku@city.kiryu.lg.jp

寄附を募集している事業(令和6年度)

詳細はこちらから
(桐生市HP)



桐生市まち・ひと・しごと創生推進事業

地域の資源を活用した魅力ある雇用を創出する	<ul style="list-style-type: none"> しごと環境の創出 地域産業、農林業の活性化 等
人口の市外流出に歯止めをかけ、移住・定住を促進するとともに、交流人口の拡大による地域の活性化を目指す	<ul style="list-style-type: none"> シティブランディングの推進 移住・定住の促進、観光の振興 等
安心して結婚・妊娠・出産・子育てができるよう、若い世代の希望をかなえる	<ul style="list-style-type: none"> 妊産婦や子育て世帯、子どもへの支援 特色ある教育、教育研究・相談機能の充実 等
将来を見据えた地域の特徴に応じたまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> 安全・安心なまちづくり 自然・歴史・文化を生かしたまちづくり 交通基盤の整備 等
計画推進のために必要な視点	<ul style="list-style-type: none"> デジタル化、公民連携の推進 効率的な財政運営 等

令和6年度の主な寄附対象事業

事業名	事業概要
移住定住推進事業	移住・定住を促進するため、「桐生市移住支援フロント むすびすむ桐生」の取組を公民連携で推進するとともに、対象要件を拡充する「移住支援補助金」や新たに開始する「地方就職学生支援事業」により、東京圏からの移住を促進します。
球都桐生プロジェクト推進事業	野球をテーマに公民連携により地域の活性化を図るため、球都桐生ウィークをはじめとするイベントの開催や、市内野球情報の発信やスポーツ動画の配信、また、先進トレーニング機器の整備や利用に対する補助・助成などの各種事業を実施します。
日本遺産活用事業	新たに「子ども観光ガイド養成講座（日本遺産編）」を開催し、子ども観光ガイドの養成を推進し、また、日本遺産つながりで都市間連携を行っている自治体が一堂に会し、日本遺産の魅力発信や織物等の共通項をテーマとした意見交換などによる「（仮称）日本遺産・織物フェスタin桐生」を実施します。
農業振興事業	6次産業化に向けた取り組みに対する補助を6年度より開始するとともに、担い手の減少・高齢化の進行等による労働力不足の解消に向けた機械化への取り組みにより農業経営の安定を図るため、継続して支援を実施します。
桐生が岡動物園事業	「未来へはばたけ 山田製作所桐生が岡動物園」が、令和5年に開園70周年の記念すべき年を迎えたことから、飼育数の増加に対応でき、さらには冬季の展示も可能で来園者から見やすいカピバラ舎の整備を実施します。
リトリート環境整備事業	公民連携による、観光客の長期滞在に繋がる観光拠点施設や宿泊施設を整えるための観光環境整備として、黒保根町全域において、心豊かに安心して楽しめるための整備を、わたらせ渓谷鐵道や関係機関と連携して実施します。
デジタルクリエイティブ人材育成事業	小中高生という若い段階から3DCGやVR等の最先端の機器を使ったデジタル創作を体験できる「tsukurun KIRYU」を保健福祉会館内に設置し、次世代のデジタルクリエイティブ人材の育成活動を実施します。
書かない窓口整備事業	市民の利便性の向上及び窓口の混雑緩和を図るため、マイナンバーカードや運転免許証等を読み取って申請書へ自動出力する書かない窓口システムを導入します。
青少年教育事業	子どもたちが、自ら運営する仮想のまちで働き、遊びながら社会の仕組みを学ぶプログラムである「こどものまち」の聖地化を目指し、他の自治体と連携・交流を図るとともに、実行委員会との連携のもと、内容の充実を図りつつ継続して開催します。